

WHAT

韓国・梨花女子大学校

人間文化創成科学研究科
ライフサイエンス専攻
食品栄養科学コース 博士前期課程
見上葉子

私が、この交換留学制度に応募した最初の理由は、どこでもいいから海外に行ってみたいというものだった。その中でなぜ韓国を選んだかという、強くひかれたのが韓国料理と食文化だった。留学するにあたり、国を選ぶときにそのことをふと思い出した。最近では日本国内の韓国料理店も増加傾向にあるようだが、本場へ行き、実際の韓国の中の食というものを学び、感じたいというのが私の韓国への留学のきっかけだった。

まず、学校についてだが、私は前後期とも韓国語の語学の授業を中心とし、自分の専門である食品や栄養学、体育などの授業をとった。食品系の授業のほとんどは日本でも1回聞いたような内容がほとんどだったが、同じ内容でも韓国での授業のしかたや、伝承食品を絡めた話、学生のプレゼンテーションなどもあり興味深かった。また、グループワークや実験のある授業も取ったので、その学科に友達ができたのもよかったと思う。一方、体育では以前から興味があった韓国の伝統仮面舞踊を受講できた。梨花大には舞踊コースもあるので、専門の先生が教えてくれるが、学生は多学科も多くいるので気楽に受講できた。そこでできた友達のおかげで、他の伝統芸能を解説してもらいながら鑑賞する機会もあり、韓国文化への理解も少し深まったように思う。

次に私が個人的に行っていた、韓国の食に対する活動について報告する。まず、梨花女子大学から留学生に紹介があった活動である **K-FOOD supporters** というのに参加した。これは、韓食財団という韓国料理を世界に広げるための活動を行っている団体が主催しており、

その一環だった。我々外国人留学生の活動は基本的には Facebook などの SNS で自国の友人たちに韓国料理を伝えることだった。また、個人的に宮廷料理研究所というところでやっている、料理教室にも通った。ここでは、韓国の宮廷料理をベースとした料理を英語と韓国で、基礎から丁寧に教えてくれた。

この留学中で苦労したことももちろんある。一つは、秋学期の時に入っていた寄宿舎のルームメイトとのことだ。私自身、留学前から希望していたこともあり、冬休みから寄宿舎を出て、学校の近所の下宿に移った。慣れない外国で、部屋を探し契約をするのは大変であり、引っ越しに伴う新たなトラブルも生じたが、結果としてとても快適に暮らせたので、正しい判断だったと思う。

私は交換留学生という身分で韓国で生活できてよかったと思う。交換留学生は自分がやりたいと思ったことをやるための、時間と手段がある。単に韓国語を学ぶだけでなく、それを手段として用いて韓国で活動できたことを誇りに思っている。

